

コロナ禍に負けないぞ！

持続可能な文化芸術活動を目指して(活動再開案内)

令和2年6月1日

特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が解除されましたが、様々な活動を再開しつつも第二波、第三波の感染拡大を最小なものにするため、三つの密の防止、消毒やマスク着用などにより感染防止策は今後とも不可欠です。

当法人は、文化庁等の感染予防対策の指針により「舞台と観客席の距離(2～3メートル以上)をとる」「入場者数をキャパ数の半分以下(もりおか町家物語館50人以下、風のスタジオ45人以下)に抑える」「観客の皆様にもマスク着用をお願いする」「舞台上の密を防ぐため同時出演者数の制限(概ね4人以下)や出演者同士が密着しない演出を心掛ける」「出演者と観客の上演中や終演後の交流を控える」「出演者・観客の連絡先を把握する」「大声の発声や歌唱・声援を避ける」「小まめで適切な換気を行う」などの対策を講じたうえで、もりおか町家物語館と風のスタジオの主催事業を再開させることにしましたので、お知らせします。

岩手県の緊急事態宣言の解除後は、

「もりおか町家物語館は5月9日から」

「風のスタジオは、本日6月1日から」 一般の皆様の利用を再開させました。

しかし、両施設とも、貸館利用は8月末までほぼゼロの状態です。

2～3か月の準備期間を要する文化イベントは、緊急事態宣言が解除されても即公演実施というわけにはいきません。風のスタジオは法人直営施設でもありますので身銭を切って、利用料金を通常より2割引き、観客数の制限に対応するサービスを実施しましたが、それでも、第二波感染により公演中止の経済的・心理的痛手を回避して公演準備活動に踏み切れない方々もおります。

文化芸術は心の糧でもあり、観光イベントと同様、経済波及効果が高い分野でもあります。

文化芸術の灯が弱くなるのは、市民生活の潤いを枯れさせるばかりか、経済活動や地域のコミュニティ活動にも大きな影響を与えます。

昨年度、「盛岡市は芸術文化創造都市宣言を行い、初めての芸術文化推進計画を策定」しました。「岩手県でも文化芸術振興指針をリニューアルし第三期指針を策定」しました。こうした地域の活性化のための新たな文化芸術活動の振興を目指す動きがやっと出てきたばかりなのに、コロナ禍で文化芸術活動は大きな痛手を被っています。

このような中で、私たちは活動再開の狼煙をあげ、新しい生活様式にも見合う表現活動を模索するとともに、これまでの活動で培った経験を活かした持続可能な文化芸術活動を展開してまいりたいと思います。そのことが盛岡市の芸術文化創造都市宣言や岩手県の文化芸術基盤づくりを実効性のあるものと導くものと確信しています。

下記が、新たに取り組む事業等です。市民・県民の皆さんへのお知らせやSNS等による発信、口コミでのお知らせのご協力をお願いします。

記

1 もりおか町家物語館

(1) 「町家のお化け屋敷の中止」と代替イベント・朗読劇「高橋克彦百物語」

会場：もりおか町家物語館浜藤ホール(50席限定＝キャパ100席)

趣旨：夏の恒例イベント「町家のお化け屋敷」がコロナの影響で実施できないために、お化け屋敷で使用した人形等をロビー等に展示し、法人の十八番である朗読劇「高橋克彦百物語」を代替事業として実施する。

なお、当法人が中心となって展開している朗読劇は「盛岡スタイルの朗読劇」としてアナウンサー、演劇人、文学者が協働して作り上げ全国的にもレベルが高く、岩手・盛岡の文化芸術の財産の一つである。朗読劇の持続的活動を保持するため、新たな人材発掘も今回の大きなテーマである。また、舞台上の密を避けるため、出演者を絞り、舞台と観客席の距離をとるなどのソーシャルディスタンスを保ち実施可能である。

内容：短編ミステリー作品は、出演者は市民から公募し、6月下旬から朗読劇ワークショップを経て、公募出演者とこれまでの出演者も交えて公演する。また、初の時代物の中編作品にも挑戦したい。

時期：8月1日～9日 5～6ステージ

付記：詳細な募集案内及び作品、指導者、入場料等は6月10日頃発表予定。

(2) 展示事業「MACHIYART2020 エニナルモリオカ」(実施時期の変更)

会場：もりおか町家物語館文庫蔵及び母屋

趣旨：当初7月の展示を予定していたが、コロナの影響により一度中止を決めた。状況を鑑み、時期を変更して再度開催する。盛岡を表現した絵画・版画・写真作品を募集し、展示する。
内容及び時期：岩手県在住者に限定し募集。実施時期は11月頃の展示開始を目安にする。

2 風のスタジオ

(1) (仮称) 風スタパフォーマンスフェス(新規)

会場：風のスタジオ(45席限定、キャパの50%)

趣旨と内容：風のスタジオ再開を記念してのパフォーマンスショー。様々なジャンルのパフォーマーたちの出演。入場料は1,200円で予約販売(メールや電話)のみ。

出演予定者：山村佑理(ジャグリング)、地伏亭金目(講談)、藤原翼(津軽三味線)ほか

時期：7月5日(日)、18日(土)、19日(日)各回13時開演予定(1時間ほど)

(2) 震災文学朗読劇総集編(延期イベントの再開)

会場：風のスタジオ(45席限定)

趣旨と内容：コロナ禍で2度延期になった公演。これまでの震災文学公募(詩・短歌・エッセイ・掌編小説)の優秀作品を総編集し朗読劇化する。

出演者：鈴木牧子(ピアノ演奏)、朗読者はこれまでの震災文学朗読劇経験者や県内各地の演劇

人等を中心に選考する。(5~6名程度)

時期：7月11日(土)、12日(日)午後2時開演

付記：入場料は1,000円。全席指定でメールや電話予約を基本とする。

(3) コロナに負けない「体験・名作戯曲を読む」(新規講座)

会場：風のアトリエ(2名以上12名以内)

趣旨と内容：稽古等の活動自粛が続く中、演劇の基礎知識習得のための名作戯曲を、声を出して読む会を行う。未経験者の参加も得て演劇層の拡大も図る。パート1は「シェークスピアと唐十郎を読む」で4回実施。シェークスピアの「真夏の夜の夢」「テンペスト」、唐十郎の「少女仮面」「盲導犬」などを読む。全回参加料は1,500円、1回ごとの参加料は500円。

時期：6月12日から7月3日までの毎週金曜日午後1時半から4時まで。

夜の回の希望が多い場合は、夜の実施も検討。

(4) (仮称)風スター人語りフェス(新規)

会場：風のスタジオ(45席限定、キャパの50%)

趣旨と内容：舞台上の三密を防ぐ一人芝居や一人語りを行う。ゲストに元紅テントの坂元貞美氏を招き、演劇人の落語を披露してもらう。演目は上方落語と江戸落語から各一題。

他は県内の演劇人等。入場料は未定(1,000円~2,000円程度)。

時期：8月22日(土)23日(日)各2回程度実施。

3 宮古市民文化会館

当法人が運営を担っている宮古市民文化会館においても、現在WEB配信を含む新たな事業を展開させます。事業内容は、宮古市民文化会館の別添及びホームページ等でお知らせいたします。詳細は、宮古市民文化会館までお尋ねください。

※ **連絡先** (いずれも6月中の電話連絡で、時間は9時~17時です)

特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター本部 019-656-8145(月~金曜)

同上 風のスタジオ(肴町事務所) 019-604-9020(火~木曜)

盛岡市肴町4-20 永卯ビル3F

同上 もりおか町家物語館 019-654-2911(第4火曜除く)

盛岡市鉤屋町10-8

同上 宮古市民文化会館 0193-63-2511(毎週月曜日を除く)

宮古市磯鶏沖2-22

以上